

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 大谷 和雄
 幹事 池田 隆
 会報委員長 浅井 誠寿

No. 11

まことの幸福は人助けから

REAL HAPPINESS IS HELPING OTHERS

1992～93年度 RI会長 クリフォード・L・ダクターマン

第496回例会 平成4年9月29日(火) 雨/曇

◇ “それでこそロータリー”

◇ 出席報告

会員 68(64)名 出席 51名
 出席率 79.69 %
 前回 9月22日 (修正出席率)100%

◇ ビジター紹介 10名

◇ お誕生日祝福

久保田君(9/15)、林君(9/17)、黒野夫人(9/30)、
 水野(賀)君(10/5)、西川夫人(10/5)、太田夫
 人(10/11)

◇ ニコボックス

瀬戸 RC 寺田 守君、村井 富治君、田中
 鉦雪君 お世話になります。

鈴木 理之君 県立名古屋聾学校の皆さんをお
 迎えて。

加藤 大豊君 山形夏季国体の愛知県選手団長
 で行って参りました。現在天皇杯皇后杯共総
 合6位です。

※紙面の都合にて一部次回に掲載致します。

◇ 池田幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致し
 ますので、理事役員の方は2F橋の間にお集
 まり下さい。

2. 次回例会は夜間例会で午後6時より松楓
 閣にて開催致しますので昼間の例会はござい
 ません。

◇ 瀬戸 RC より地区大会参加のお願い

バスト会長 寺田 守君
 大会夫人の集い副委員長 村井 富治君
 田中 鉦雪君

今回の地区大会は私共の瀬戸 RC がホストを
 務めることとなりました。大会のテーマは“焼
 き物の街「瀬戸」を舞台に、ロータリアンの
 親交を深めよう”です。

開催日は11月22日・23日・24日で、1日目は
 ホテルナゴヤキャッスルで行い、同日の晩餐
 会には世界的に著名なバイオリニストをお招

きします。2日目は瀬戸市体育館で8時から
 登録を開始し、記念講演にはジェームス三木
 さんを迎える予定となっておりますが急き
 ょ利根川裕さんに変更させて頂いております。

3日目は品野台カントリークラブで記念ゴ
 ルフ会を開催します。このコンペでは瀬戸の
 有名な陶芸家の作品をたくさん用意しており
 ますのでどうぞご期待ください。

この大会には2350名の方々にご来場頂ける
 よう準備をすすめておりますので、ロータリー
 の親睦と友情で多数の皆様のご出席を心より
 お待ち申し上げます。

◇ 鈴木理之青少年奉仕委員長挨拶

愛知県立名古屋聾学校の生徒さんの日頃の
 ボランティア活動・献血運動に対して大谷会
 長より前生徒会長の置田拓之君・北村喜久子
 さんに表彰状と楯をお渡し頂きます。



◇ 大谷会長挨拶

自らをみがき、自らに克つ

今月は青少年活動月間です。クリフォード
 L.ダクターマン R.I.会長のメッセージがあり、
 実行グループ、目標中の「青少年への奉仕」と
 して、

1. ロータリー世界における青少年への奉仕活動についての認識を高める。
2. 若い世代の人たちに青少年への奉仕に関する認識を高めさせる。
3. 若い人達の間で、先輩が後輩に良い手本を示して見せることを奨励し、不良行為に抵抗する訓練プログラムにおける同輩の指導を支持する。

の三点です。本日は、「他者への思いやり」で、「献血」や「地域の清掃」を実践しておられる愛知県立名古屋聾学校の岩田拓也校長先生と生徒さんお二人にお越し頂き、善行の生徒さん達を讃え、後ほど校長先生からお話を伺うことになっております。この学校は、聴覚に障害のある生徒さんに対し、一人ひとりの障害に基づく困難を克服し、能力や適性を伸ばし、国家社会の有為な人間の育成を目指しておられ、「自らをみがき、自らに克つ」という校訓のもと、心身ともに健康な生徒さんを育てておられます。

心ゆたかで、明るく力強く成長していただくことを願っております。

◇ 講演

“これからのろう教育を考えて”

愛知県立名古屋聾学校 校長
岩田 拓也 氏



1 二十一世紀を目前にして明治34年(1901年)に創立、古い歴史を持つ名古屋聾学校。本年度91年目、平成13年(2001年)には創立100周年の節目を迎える。

本校90年の歴史を30年ごとに区分すると、I期は私立・市立盲啞学校時代、II期は振甫町に新校舎竣工、口話法の研究、県立となり盲と聾学校分離、III期は昭和39年児童生徒数の増加で千種聾学校(幼・小)、名古屋聾学校(中・高専)と分離、来年度移転30周年を迎える。21世紀まであと9年、課題は多い。

2 世界ろう者会議の開催

昨年9月世界ろう者会議(第11回)が東京で開催され、約7000人のろう者が世界中から集まった。その後、名古屋で国際フォーラム(ドイツ訪日団)が開催され、本校にも来た。今年9月、韓国との親善野球試合、国際フォーラムが名古屋で開催され、訪問を受けた。歓迎交流会には司会進行を生徒会役員が行った。韓国の手話の70%は日本と共通である。国際化時代、今後こうした機会は多くなると思われる。教育現場で有効に活かしたい。

3 関連諸科学の発達と福祉の恩恵

最近10年間に社会の情報伝達は目覚ましく

進歩した。第一は人工衛星画像通信の効果、第二はハイビジョンの普及、第三はファクシミリ等の普及、第四はまだ実用されていないが期待されるのが光通信である。更に聴覚障害教育関係者にとって関心が深い文字放送並びに手話放送がテレビを通じて著しく普及し、成人聴覚障害者の情報獲得に大きく貢献している。聾教育の果たす役割は更に増大しそう。

4 科学技術の進歩と教育現場での活用

聴覚障害教育におけるコミュニケーションの課題は古くて新しい問題である。元来、聴覚障害教育のコミュニケーション手段は①発声・発音・発語、②キュードスピーチ・指文字・手話、③文字・画像、④表情の4種類になる。科学技術の進歩により①補聴器の改良や人口内耳、②聴覚の代行としての視覚や触角の利用、③その他の機器利用が研究されてきた。コンピュータを用いた字幕挿入装置が実用化され、音声のリアルタイム文字変換も期待できそう。早期発見・早期教育に伴い学年対応の教育が実現、筑波技術短期大学の開設により教育現場での活用が緊急の課題となる。

5 聾教育の課題と解決の方向づけ

キュードスピーチ・指文字・手話の利用は、口話法の困難な“間”と“抑揚”、“情動連合”を表情の変化も加えることによって補うばかりでなく、聴能・読話を凌ぐ伝達力によって聴覚障害教育に定着しつつある。キュードスピーチが幼稚部を中心に、指文字・手話が中学部・高等部で口話に併用されている。

今後の聴覚障害教育においてコミュニケーションメディアの利用がどのように展開されるかについては予想は難しいが、幼児期における聴覚活用、高等部以降における手話の利用等に象徴されるようにその利用は発達段階や聴力レベルに応じて益々分極化されていくことになると考えられる。現在文部省でも調査研究がなされている。21世紀を目前に解決の方向づけが望まれる。

◇ 9月度理事会議題

1. 新入会員候補者承認の件。
2. 新入会員候補者の件。
3. 寄付金見直しの件。

◇ お知らせ

会員 黒野 貞夫君が9/28付でシニア会員になりました。

◇ 次回例会 (10月6日)

夜間例会(10周年記念例会打ち合わせ)
松楓閣にてP.M. 6:00より

◇ 次々回例会 (10月13日)

講演 “市営交通事業の現況と課題”
名古屋市交通局長
平野 幸雄氏